

地域に根ざした貢献活動

地域社会と共生する企業であり続けるために、
地域社会の一員としての取り組みやコミュニケーションを大切にしています。

工場周辺地域との共生

サントリーグループの主要工場では、地域住民の皆様との対話や、工場内に造成した公園・遊歩道を開放するなど、地域交流の場の提供に努めています。新たに工場を建設する際には、第三者による環境影響評価などを行い、周辺住民の皆様にご理解いただくとともに、生物多様性の保全や工場内の緑化など自然との共生に努めています。

TOPICS

天然水奥大山ブナの森工場が 日本緑化工学会賞(技術賞)を受賞

サントリープロダクツ(株)が鳥取大学および西武造園(株)と共同で取り組んでいる天然水奥大山ブナの森工場における緑化活動に関して、2011年に日本緑化工学会賞(技術賞)を受賞しました。天然水奥大山ブナの森工場は、建設当初より30年以上先を見据えた緑化計画に沿って、徹底して地域在来の生態系に配慮した環境緑化を推進しています。工場周辺の地域性種苗※(ブナやコナラなど)のみを用いた緑化を進めており、成木・根株・幼苗を混植するほか、モニタリングによってそれらの生育状態の詳細データを蓄積、運用しています。今回の受賞は、こうした活動が生物多様性緑化の優れた実践例として評価されたものと考えています。

※地域性種苗:ある範囲内に分布する種のうち、遺伝子型をはじめ、形態や生理学的特性などに類似性・同一性が認められる集団のこと



サントリープロダクツ(株)
天然水奥大山ブナの森工場

●工場見学を通じてお客様と対話

おいしさや安全へのこだわり、自然環境への配慮など、商品を通じた取り組みをより多くの方に知っていただくため、ビール工場・ウイスキー蒸溜所・ワイナリー・天然水工場などで、工場見学や特別セミナーを実施しています。



天然水工場での工場見学



ビール工場での特別セミナー開催

全国の事業所で美化活動を実施

全国にあるサントリーグループの各事業所では、周辺の清掃をはじめ、自治体が主催するごみ拾いへの参加など、環境美化に取り組んでいます。2012年の「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」(2003年より協力・協賛)には、従業員および家族も参加し、住民や近隣企業の方々とともに合計102kgのごみを回収しました。



東京ベイ・クリーンアップ大作戦



武蔵野ビール工場の従業員・家族による多摩川清掃

災害被災地への支援

サントリーグループでは、国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や、飲料水の提供など、被災者および被災地の支援を行っています。(東日本大震災の復興支援活動についての詳細は、P19-22を参照)

●災害時に飲料を無料提供

サントリーフーズ(株)では、「緊急時飲料提供ベンダー」を開発し、設置を進めています。普段は通常の自動販売機同様に飲料を販売し、災害発生などの緊急時には無料で飲料を提供。電源が落ちた場合でも、鍵なしで簡単に飲料を取り出せます。2011年3月の東日本大震災時にも、多くの方々に活用いただきました。

2012年は、行政施設や病院などを中心に約4,000台を設置し、2012年末現在で、約8,000台が全国に設置されています。このタイプの自動販売機を、今後も積極的に投入し、台数増加に努めます。



緊急時飲料提供ベンダー

文化・社会貢献活動

創業から現在まで変わることなく、「利益三分主義」の精神に基づき、豊かな生活文化の実現に寄与する文化・社会貢献活動に取り組んでいます。

継続的な社会貢献

創業者・鳥井信治郎は「利益三分主義」を唱え、事業で得た利益を社会に還元することを信念としていました。特に、恵まれない境遇におかれた人々への慈善活動、社会福祉活動に積極的に取り組みました。サントリーグループは、社会のニーズの変化を見据えながら、現在に至るまで社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

●社会福祉法人「邦寿会」を通じた支援

1921年の無料診療院開設を機に創立された「邦寿会」は、2011年に90周年を迎えました。現在は社会福祉法人として、特別養護老人ホーム「高殿苑」(1974年開設)、総合福祉施設「どうみょうじ高殿苑」(2008年開設)、「旭区西部地域包括支援センター」(2011年4月大阪市より受託)、「つばみ保育園」(1975年開設)を運営しています。近年では、時代のニーズに応えた訪問介護(ヘルパー)、通所介護(デイサービス)、居宅介護支援(ケアプラン)などの在宅介護サービスも提供しています。



「どうみょうじ高殿苑」



「高殿苑」と「つばみ保育園」での交流

豊かな生活文化に貢献

サントリーグループは、人々のより豊かな生活文化への貢献を目指してきました。「サントリー美術館」「サントリーホール」をはじめとした文化施設の運営など、さまざまな芸術文化支援に力を注いでいます。

また、芸術文化の振興だけでなく、人文・社会科学の学術研究助成や、生物有機化学の研究活動の推進も行っています。こうした活動を通じて、次代を担う国際的人材の育成も目指しています。

●公益財団法人サントリー芸術財団

サントリー美術館とサントリー音楽財団の2つの活動を1つに束ね、2009年に設立しました。2012年4月からは、サントリーホールの運営へと事業領域を拡大し、音楽・美術のさらなる普及と発展への貢献を目指しています。

○サントリー美術館

「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館。2007年には東京ミッドタウンに移転し、「美を結ぶ。美をひらく。」を掲げて、国宝・重要文化財などの収蔵品をはじめとした展覧会を開催しています。



○サントリーホール

1986年に、東京初のコンサート専用ホールとして開館。年間550を超える公演に60万人近くのお客様が来場され、世界の一流演奏家による公演や多彩な自主企画を開催しています。



○音楽事業

1969年の設立から、音楽の分野で優れた業績をあげた個人または団体を顕彰するサントリー音楽賞、佐治敬三賞、芥川作曲賞などを設け、クラシック音楽の振興や新進作曲家の育成を支援しています。



●公益財団法人 サントリー文化財団

1979年に設立。サントリー学芸賞、サントリー地域文化賞、国際的・学際的な研究助成などにより、社会・人文科学と地域文化の振興に取り組んでいます。



●公益財団法人 サントリー生命科学財団

1946年に設立した食品化学研究所を前身に、1979年にサントリー生物有機化学研究所を設立。2011年1月に改称し、公益財団法人に移行。生物有機化学を基盤とする研究活動のほか、奨励助成事業も行っています。

●「サントリー1万人の第九」への協賛

1983年、大阪城ホールのオープニング記念イベントとしてスタートした「サントリー1万人の第九」。サントリーグループは、師走の風物詩である本コンサートに第1回から協賛しています。

30回目を迎えた2012年は、その時々々の出来事とともに30年間の歴史を振り返り、思いを新たに「1万人の第九」を披露しました。また、昨年に引き続き、復興に向けて前

進する東北会場と中継を結び、両会場あわせて11,000名が「歓喜の歌」を高らかに響かせました。



サントリー1万人の第九

「夢」と「感動」を伝えるスポーツ活動

企業スポーツへの参加やスポーツ振興のための活動にも力を入れています。チーム活動では、ラグビーとバレーボールの自社チームを組織し、リーグ戦に参加しています。両チームとも競技の普及活動を重視し、オフシーズンを中心にラグビー教室・バレーボール教室を積極的に開催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。



ラグビー部「サンゴリアス」



バレーボール部「サンバース」

次世代育成支援を強化

サントリーグループでは、子どもたちがスポーツ・音楽・美術・環境教育などのさまざまな分野で、本物や一流に触れる機会を提供し、豊かな個性・人格形成を支援しています。

●次世代の演奏家・聴衆を育成

「サントリーホール」では、アメリカのカーネギーホールと連携して、3～6歳の子どもたちがカーペットに自由に座り、一流演奏家が奏でる音楽を間近で聴くことができる「カーネギーキッズ at サントリーホール」を開催しています。

また、子どもたちが定期的にコンサートホールに行く習慣を身につけ、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいとの願いから、「こども定期演奏会」も開催しています。



カーネギーキッズ2012



こども定期演奏会

●美術に親しむ機会の提供

「サントリー美術館」では、中学生以下は入館料無料、鑑賞支援ツール「おもしろびじゅつ帖」の無料配布に加え、お客様と美術館をつなぐ交流の場として「エデュケーション・プログラム」を行っています。展覧会ごとに親子ワークショップやスライドを使ったわかりやすい展示解説「フレンドリートーク」を実施。2012年夏には、子どもたちに日本美術の楽しさ、おもしろさを伝えるため、初めて次世代向け展覧会「おもしろびじゅつワンダーランド」展を開催しました。



フレンドリートーク



「おもしろびじゅつワンダーランド」展

従業員の社会貢献活動を支援

2012年は74名の従業員が「ボランティア休暇制度」を利用し、さまざまなボランティア活動に参加しました。また、「邦寿会」の老人ホームでの清掃活動や森林整備体験などの社内ボランティアにも積極的に参加しています。



「邦寿会」での清掃作業



「天然水の森」での森林整備体験

アルコール関連問題への取り組み

酒類を製造・販売する企業の責任として、
アルコール関連問題に積極的に取り組んでいます。

専門組織が責任をもって対応

サントリーグループは、1976年に「サントリー宣伝コード」を制定し、飲酒に関する宣伝・広告表現の自主規制を業界に先駆けて開始しました。その後、アルコール関連の専門組織「ARP※委員会」と、その事務局「ARP事務局(現ARP室)」を設置。社内外への適正飲酒の啓発、販売・宣伝活動の社内チェック、研究機関への参加・協力・支援などを行っています。

※ARP(Alcohol-Related Problems): アルコール関連問題

●マーケティングにおける自主基準を改定

「飲酒に関する連絡協議会」が制定した共通自主基準をもとに、社会情勢に対応して自主基準を改定しています。2010年にはCMに妊産婦飲酒の注意表示を実施。また、テレビCMの土・日・祝日の自粛時間を延長し、年間を通して5時00分～18時00分まで酒類のテレビ広告を自粛することとしました。

お客様や従業員に適正な飲酒を啓発

サントリーグループでは、1986年から継続して「酒は、なによりも、適量です。」というメッセージを伝える「モデレーション広告」を主要全国紙で展開。2012年末までに130回以上掲載しています。

また、「イッキ飲み防止連絡協議会」が実施している「イッキ飲み防止キャンペーン」の趣旨に賛同し、1993年の第1回キャンペーンからポスター・チラシなどのデザインやノベルティプランニングに協力を続けています。

あわせて、酒類を製造・販売する企業として、従業員の適正飲酒に関する意識を高めることも重要だと考え、国内グループ会社従業員への啓発を行っています。



モデレーション広告
(2012年12月掲載)



2013年「イッキ飲み防止
キャンペーン」のポスター

飲酒運転撲滅に向けた予防・啓発活動

広告による飲酒運転警告表示や飲食店へのポスター配布、Webサイトでの情報発信などを通して、飲酒運転防止の啓発活動を行っています。

また、欧米などで先行している「指定ドライバー制度」を工場見学の受け入れの際に導入しています。受付時と試飲会場で、2回にわたり確認し、ドライバーの方にはノンアルコール飲料を提供しています。

さらに、アルコール飲料の責任ある広告と販売を実践するため、酒類商品の店頭試飲会などを中止しました。

業界と連携した啓発活動

ビール酒造組合、日本洋酒酒造組合など業界団体の一員として、中高生を対象とした未成年者飲酒防止のためのポスター、スローガン募集キャンペーン、新聞・雑誌での啓発広告を展開し、妊産婦飲酒防止に向けた商品パッケージへの注意表示などを実施しています。



「STOP! 未成年者飲
酒キャンペーン」ロゴ

商品パッケージへの
注意表示

アルコール関連問題低減に向け世界的に活動

WHO(世界保健機関)は、アルコール関連問題の低減に向けて、各国政府、公衆衛生機関の専門家などと協議して活動を続けています。2010年にはアルコールの有害な使用を低減するために、酒類業界も重要なステークホルダーと位置づけた世界戦略を採択しました。

サントリー酒類(株)はGAPG※の構成員として、世界の主要酒類メーカーと連携。WHOによる2013年の戦略実行状況レビューに向け、発展途上国・新興国での飲酒運転防止、自主基準の設定、違法酒への取り組みなどの活動を支援しています。

※GAPG(Global Alcohol Producers Group): アルコール関連問題低減に向け、世界の主要酒類メーカーが加盟している団体